

小学校英語活動指導案の作成

～かかわりを大切にしたコミュニケーション活動を取り入れて～

南城市立佐敷小学校教諭 與那覇 紀子

I テーマ設定の理由

国の動向

グローバル化が進む中で、異なる文化の共存や人材育成の面からも国際コミュニケーションの手段としての英語の必要性が一段と高まっている。このため、国際理解教育の充実を図り、小学校段階から英語によるコミュニケーション能力の素地を養うことが重要視されている。

本研究所の英語活動の取組

文部科学省では平成20年3月28日に小学校学習指導要領の改訂を告示し、新学習指導要領では平成23年度から小学校第5・6学年で週1コマ「外国語活動」が完全実施となった。本県においては、これまでの実状（第5・6学年における英語活動実施状況、実施率100%）を踏まえて、平成21年度から外国語活動を教育課程に位置付けることとした。

本研究所では平成19年度から、小学校英語活動必修化を見据え長期指定研究「小学校における英語活動の推進」の取組が始まった。第一回目である大城（平成19年度前期研究員）は管内全小学校に英語に関する実態調査をし、そこから具体的課題を明らかにし、校内体制づくり、環境づくり、授業づくりなど英語活動推進のための対策を立て、リーフレットにまとめた。第二回目である仲村（平成19年度後期研究員）は、管内の小学校英語活動年間計画を収集し分析を行った。その結果、管内の9割近い小学校で年間指導計画が作成され、英語活動が進められていることが分かった。そして、指導する題材において、学年間の系統性がない等の課題をもとに、発達段階に応じた題材や活動などを系統づけ、小学校3～6年生の年間指導計画と各学年35時間分の単元計画を「Exciting English Lessons」にまとめた。第三回目である新垣（平成20年度前期研究員）は、前述の仲村が作成した年間計画・単元計画を基に6年生の年間35時間分の体験的なコミュニケーション活動を取り入れた活動指導案「smile」を作成した。

5年生活動指導案作成の必要性

そこで、本研究では仲村の単元計画と新垣が作成した6年生の指導案の形式を基に、5年生の35時間分の活動指導案を作成する。作成にあたっては、児童が英語を使ってコミュニケーションを図る楽しさを体験するために、人とのかかわりを大切にしたコミュニケーション活動を取り入れた授業展開を工夫する。そして、「活用しやすい指導案」にするために授業実践を通して指導案を検証し、工夫・改善を行う。最終的には小冊子「fun」にまとめ、管内小・中学校に資料を提供したい。

II 研究の目的と方針及び計画

1 目的

系統的、計画的な単元計画に基づいて、「かかわりを大切にしたコミュニケーション活動」を取り入れた小学校英語活動指導案を作成し、小冊子にまとめたものを管内小・中学校に配布する。

2 研究計画

- (1) 「Exciting English Lessons」(年間指導計画・単元計画)に基づいた5年生の年間35時間分の英語活動指導案の作成。
- (2) 授業実践を通して英語活動指導案を検証し、工夫・改善を行う。
- (3) 英語活動を盛り上げる楽しい教材・教具作り

(4) 管内小・中学校への英語活動指導案の配布

Ⅲ 研究内容

「Exciting English Lessons」(年間指導計画・単元計画)に基づいた5年生の年間35時間分の英語活動指導案を作成する。作成に当たっては「smile」(6年生用英語活動指導案)の形式を引き継ぎ、かつ、「かかわり」を大切にしたコミュニケーション活動を取り入れた指導案とする。

1 「かかわりを大切にしたコミュニケーション活動」について

(1) かかわりについて

大辞林によると「かかわり」とは、「関係すること」とある。「関係」とは、「物事の間は何らかの意味でつながりがあること、また、そのつながりのことである」とある。

児童は、学校という社会の中では学びの共同体が形成され、様々なこととかかわり合いながら多くを学び、感じ、育っていく。この場合の「かかわり」とは人だけに限定されるものではなく、活動にかかわるすべての「もの」や「こと」とのかかわりにも広がる。

小学校英語活動では、英語を通じてコミュニケーションを図る楽しさを体験させることとなっている。英語を使って、「相手の伝えたいことがわかった」「自分の伝えたいことが伝えられた」ということを体感させるには、活動する際の人・もの・こととのかかわらせ方が大切になってくる。

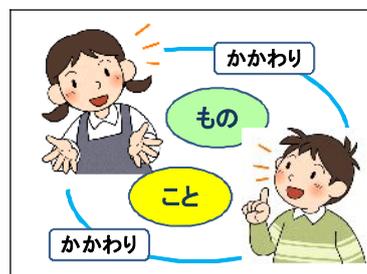
本研究では英語活動に関する「人・もの・こと」を下記のように捉える。

人：友達や学級担任，ALTまたはJTE，学校職員，地域人材など
もの：文化や習慣，教材教具，視聴覚教材，学習環境など
こと：行事，日常生活，学校生活など

ところが高学年の児童は周りを意識し始め目立つことを恥ずかしがり、声に出して表現することに抵抗を感じる傾向がある。そのような児童を意欲的に英語活動に取り組めるようにするためには、相手とのかかわらせ方が大事になる。

相手の存在を認め、様々な活動を通してコミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験するためには、「もの」や「こと」を媒体としながらも、より「人」とのかかわりが重要だと考える。

そこで本研究では、「人」とのかかわりを大切に活動に焦点を当てて単元計画と指導案に取り入れていく。人とかかわりを通して、他人の良い面を尊重しながら互いに教え合い学びあっている中で、ものの見方や考え方が広がり、コミュニケーションの大切さを感じるであろうと考える。



(2) コミュニケーション活動の場面と働きについて 表1 コミュニケーションの場面と働きの例

活動の中で相手とかかわろうとする意欲をもたせ、コミュニケーションの楽しさを実感させるためには、設定したコミュニケーションの場面が、児童にとってふさわしいものかどうか、また、そこで扱う言葉の働きについても留意する必要がある。

そこで、表1の「場面」や「働き」について単元計画の中に取り入れていく。

コミュニケーションの働きの例	
(ア) 特有の表現がよく使われる場面 ・あいさつ ・自己紹介 ・買い物 ・食事 ・道案内など	
(イ) 児童の身近な暮らしにかかわる場面 ・家庭での生活 ・学校での学習や活動 ・地域の行事 ・子どもの遊び 等	
コミュニケーションの働きの例	
(ア) 相手との関係を円滑にする (イ) 気持ちを伝える (ウ) 事実を伝える	(エ) 考えや意図を伝える (オ) 相手の行動を促す

(3) 単元構成の工夫

① 「触れる」「慣れる」「親しむ」について

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるためには、体験的に「聞くこと」「話すこと」を通して音声や表現に慣れ親しませることも必要である。そこで、単元を「触れる」「慣れる」「親しむ」段階で下記のように捉えて構成する。

表2 「単元構成」

過程	触れる	慣れる	親しむ
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体の見通しを持たせ、主体的に学習する意欲を持たせる。 ・視聴覚機器や実物、またHRTとALTのデモンストレーションで使用表現に触れ、場面をイメージする。 <p style="text-align: center;">新しい単語を聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元で使用する表現に慣れる。(チャンツやゲームなどでコミュニケーションに必要な表現に慣れる。) <p style="text-align: center;">何度も聞く・話す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元で学習した表現や自分の知っている英語やジェスチャーなどを使って、コミュニケーションを楽しむ。 <p style="text-align: center;">慣れた英語で楽しむ</p>

② 単元計画表について

仲村の作成した単元計画を基に、工夫した点を下記に示す。

Ⓐ 「コミュニケーションの場面と働きの例」について提示

Ⓑ 各単元の題材に沿って「触れる」「慣れる」「親しむ」の段階で構成

表3 「単元計画表」の例

5月		活動のねらい			
ロンドンは今、何時?		・時刻のたずね方や答え方を通して、1～60までの数に慣れ、コミュニケーションを楽しむ。			
言語材料の系統性		時間	第1時【触れる】	第2時【慣れる】	第3時【親しむ】
5年	ロンドンは今、何時?	ねらい	★1～60までの数字の言い方に触れる。	★時刻の答え方に慣れる。	★時刻のたずね方や答え方を通して、友だちとのコミュニケーションを楽しむ。
6年	世界のお金で遊ぼう		●あいさつ ●グリーティングチャンツをする。 ●1～20までの言い方を復習する。 ●1～60までの数え方を知る。 ●アメリカ合衆国の国旗にある星の数	●あいさつ ●グリーティングチャンツをする。 ●歌を歌う「What time is it, Mr Wolf」 ●1～60までの数字の言い方を復習する。 ●ALTとHRTのデモンストレーション	●あいさつ ●グリーティングチャンツをする。 ●歌を歌う「What time is it Mr, Wolf」 (It's 1 o'clock. にあたる部分は It's 1:20. など替え歌にする) ●スキットを見て、世界の時差を知る。
コミュニケーションの場面		活動			
①あいさつ ②日常生活(時刻)					
コミュニケーションの働き					
(ア)相手との関係を円滑にする。(お礼など)					
(イ)気持ちを伝える(I'm happy./fine.等)					
(ウ)事実を伝える(2, 3時のIt's 1:25. など)					

2 指導案作成について

(1) 活用しやすい指導案の構成

活用しやすい指導案にするため下記の点に留意して作成した。

(下記の①～③は新垣が作成した形式で、④の下線部分と⑤・⑥が今回から新たに加えた点である。)

① HRT と ALT・JTE の役割りを明確にするため欄を別に設け、

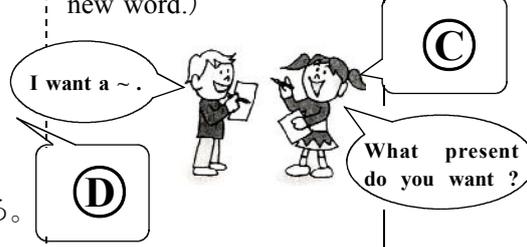
②活動の場面に適しているクラスルームイングリッシュを書き入れ太字にし、順番を記載した。

③子どもの活動がイメージしやすいように図や絵を示した。

④児童相互や児童対教師など「人」とのかかわりがもてる活動を設定した。

⑤ALTにも内容が分かりやすいように、簡単な英語表現を書き入れた。

表4 指導案の構成

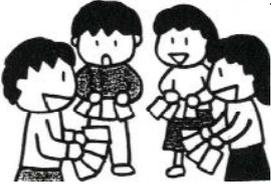
単元名			
1 ねらい			
2 主な言語材料			
3 準備			
児童の活動	HRT	ALT・JTE	留意点・準備
ウォームアップ ★あいさつ ★歌・ダンスなど ★前時の復習など	① How are you ? ・挨拶をしたり、今日の日付・天気などを聞いたりする。 ・本時のないように関係する歌やTPR に取り組む。 ・前時の英語表現や単語の練習をする。		教材・教具
メイン活動 ★めあての確かめ ★新しい表現・会話の練習 ★チャンツ・ゲームなど	② Look at our demonstration. ・HRT と ALT・JTE のデモンストラーションで本時の表現を導入する。 ・音声中心 ・児童にたっぷり英語を聞かせる ・変化のある繰り返しで練習する ・学習形態の工夫 (全体→グループ→ペア等) ⑤ Now we play a game. ・活動の場を工夫する。 ・活動の時間を十分とる。 ・活動の状況を把握し支援する。	③ Please look, listen and be quiet. (demonstration with HRT) ④ It's a ~. (teach about new word.) 	・準備物 ・配慮事項を書く ・図や絵を示す
振り返り ★めあてについて 自己・相互評価 ★あいさつ	・本時のまとめをする ⑥ How was the class? ・児童の感想を発表させる。	・(Please say something about today's class.)	
評価	興味・関心、コミュニケーションの観点から書く。		

(2) 実際の指導案例

6月 その服すてき！ (2時目)

- 1 ねらい ・身近な洋服の言い方に慣れる。
- 2 主な言語材料 T-shirt / sweater / vest / jacket / pants / skirt / cap / shoes / socks / belt
"I want a ~ ." "What color is his ~ ?"
- 3 準備 CD, CDプレーヤー, ピクチャーカード, ワークシート, 児童用カード,

過程	児童の活動	H R T	A L T	留意点☆準備◎
ウォームアップ (7分)	<p>1 あいさつ (今日の体調, 曜日, 日付, 天気の確認)</p> <p>2 グリーティングチャンツをする。</p> <p>3 歌を歌う。</p> <p>4 絵カードを使って, 洋服の名前の言い方を練習する。</p>	<p>P 3, のウォーミングアップの一覧を参考に</p> <p>② Thank you. I like your T-shirt.</p> <p>③ Let's do the greeting chants.</p> <p>④ Let's sing a song. ♪"Rainbow"</p> <p>⑤ Let's review. Mr/Ms. ~, please.</p>	<p>① I like your skirt. etc. (Enjoy with HRT)</p> <p>(Sing together.)</p> <p>⑥ (Review with picture cards.)</p>	<p>☆ ALT と HRT の挨拶の中に「洋服」に関することも触れる。</p> <p>◎ CD</p> <p>◎ ピクチャーカード</p>
	<p>5 ALTの話を聴きながら, 誰のことか当てる。</p> <p>6 今日の学習のめあてを知る。</p> <p>7 "犯人をさがせゲーム"をする。</p>	<p>⑦ Listen carefully to Mr/Ms. ~. 。担任も一緒に予想する。</p> <p>ALT: It's a girl. Black skirt. Ss: ~さん!</p> <p>⑧ Today's topic is ~ .</p> <p>めあて 洋服の名前の言い方に慣れよう</p> <p>⑩ Let's play " WANTED! game". Mr/Ms. ~ explain, please. ・説明が終わってから配る。</p> <p>⑫ Let's start.</p> <p>①一人一枚ワークシートをもらう。 ② ALT のヒントをよく聞く。 HRT: What color is his shirt ? ALT: It's white. HRT: What color are his pants ? ALT: It's brown. etc ③ ALT のヒントからわかった犯人の番号を</p>	<p>⑧ I will put out the hints. Guess the person. (これからヒントを出します。誰のことか予想してね。)</p>  <p>⑪ (Explain.) I Each student gets one worksheet. II Listen to the hints. III If you know the answer, write the number.</p>	<p>☆何回か行う</p> <p>☆めあての提示</p> <p>◎ワークシート</p>
メインアクティビティー (31分)				

	<p>選び、シートに書く。 ④これを何度か行う。</p> <p>8 "カード集め"ゲーム ⑮ This game is finished. に必要な英語表現の練習をする。 全体→グループ→ペア</p> <p>9 "カード集め"ゲームをする。</p>	<p>⑮ Let's practice the sentences. Mr/Ms. ~, please. * ALT と役割を分担する。</p> <p>⑯ Let's play "Card collect game". Mr/Ms. ~, explain, please. * ALT と一緒に説明する。</p> <p>⑰ Make groups of 4. ⑱ Let's start.</p> <p>① 4人1グループになり、1人に3枚ずつカードを配る。 ② グループでそろえるものを相談する。その際、グループ内での交換はしてはいけない。 ③ 他のグループの児童とじゃんけんして、勝った児童は、好きなカードをもらい、自分の要らないカードを相手にあげる。 ④ 違う児童と③を繰り返す。 ⑤ グループ内で同じカードが3枚そろえると1ポイントとし、ポイントの高いグループの勝ちとする。</p> <p>A: Hello. B: Hello. AB: Rock, paper, scissors, 1, 2, 3 A: What do you want? B: I want a jacket. A: Here you are. B: Thank you.</p>  <p>* 勝つことだけにこだわらないよう、支援する。</p> <p>⑳ Time is up. Go back to your places. ・一緒にポイントを数える。</p>	<p>⑮ (Practice the sentences.) What do you want ? I want a ~ .</p> <p>⑰ (Explain.) I Make groups of 4. Each student gets 3 cards. II Each group chooses the cards to collect . III Look for a partner. "Rock, paper, scissors, 1, 2, 3". Winner choose a card from the partner. And gives unused card to partner. IV High score group is the winner.</p>  <p>㉑ Let's count the points together. Group ~ is the winner.</p>	<p>◎ピクチャーカード ☆チャンツで</p> <p>◎児童用カード (1 時目に使ったカルタカードで) ☆「Tシャツと靴と帽子がそろろうと1点」など得点方法を工夫しても良い。</p>
<p>振り返り(7分)</p>	<p>10 今日の学習を振り返る。 ・振り返りカードを書く。 ・感想を発表する。 ・終わりのあいさつをする。</p>	<p>㉒ Back to today's topic. ・振り返りカードを配る。</p> <p>㉔ How was the class ? ・児童のがんばりを賞賛し、ALTにも感想を聞く</p> <p>㉖ Let's finish our English class.</p>	<p>㉓ What do you want ? Ss: I want ~ .</p> <p>㉕ (Say something about today's class.)</p> <p>㉗ That's all for today. See you next class.</p>	<p>◎ピクチャーカード ☆振り返りカードも感想も日本語で良い。</p>

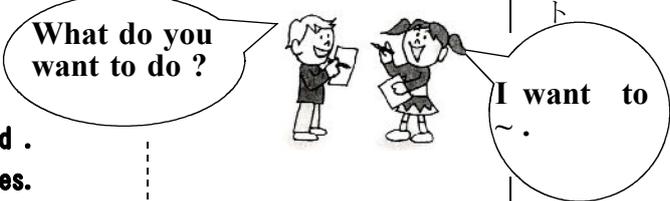
評価

- ・身近な洋服の名前の言い方に慣れることができたか。
- ・英語を使つてのコミュニケーションを楽しむことができたか。

1月 今年やってみたいこと 3時目

- 1 ねらい ・自分の「今年目標」を友だちと伝え合う。
- 2 主な言語材料 get up early, read books, play the piano, play soccer, do jump rope, study computer, study harder, help my mother, "What do you want to do?" "I want to ~."
- 3 準備 CD CDプレーヤー, ピクチャーカード, ワークシート

過程	児童の活動	H R T	A L T	留意点☆ 準備◎
ウオーミングアップ (5分)	1 あいさつをする。 (今日の体調、曜日、日付、天気の確認) 2 グリーティングチャンツをする。	P 3 ,のウォーミングアップの一覧を参考に (Enjoy with HRT)		「お正月」の話に触れる。 ◎CD
	3 新年の抱負の言い方を復習する。 「I want to ~.」 4 HRTとALTのデモンストレーションを見る。 5 今日の学習のめあてを確認する。	① Let's review. Mr./Ms.~, please. . ③ Look at our demonstration. A: 「Hello.」 B: 「Hello.」 A: 「This year,What do you want to do ?」 B: 「I want to ~ .」 A と B を交代して聞く ④ What's today's topic?	② What do you want to do ? (Practice with picture cards.)	◎ピクチャーカード
メイン活動 (33分)	6 本時で使う英語表現の練習をする。 全体→グループ→ペア	⑤ Let's practice. Mr./Ms.~, please. A: 「Hello.」 B: 「Hello.」 A: 「What do you want to do ?」 B: 「I want to ~.」 A: 「Thank you.」 B: 「You're welcome.」 B: 「What do you want to do ?」 A: 「I want to ~.」 B: 「Thank you .」 A: 「You're welcome.」 A: 「See you .」 B: 「See you.」	⑥ (Practice the sentence.)	☆めあての提示 ◎ピクチャーカード ☆CD (チャンツで行うと良い)
	7 インタビューゲームの仕方を知る。 ①相手をを見つけ、お互いに質問しあう。 ②相手の名前と「目標」を書く。	⑦ Let's play "Inteview game". Please explain Mr./Ms. ~. * 「自分と同じ目標の人が何人いるんだろうね。」など、児童がお互いに	⑧ (Explain the game.) I Look for a partner and ask each other . II Write your partner's name and answer. * Please teach to the children	☆「自分の目

<p>振り返り (7分)</p>	<p>8 インタビューする時の注意点を確認する。</p>	<p>聞いてみたいというような言葉がけも必要。</p> <p>⑨ Any question ?</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>⑩インタビューする時の注意点を確認する。</p> <p>①「自分の目標」を伝えよう ②相手の目を見て (eye contact) ③相手に伝わるような声で (clear voice) ④英語を使って (in English)</p> </div>	<p>who don't understand the resolution. (自分の「目標」の言い方が分からない子に教えてください。)</p>	<p>「目標」の言い方を知らない児童は ALT に質問させる。</p> <p>☆インタビューする時の良い例と悪い例を提示すると良い。</p> <p>◎ワークシート</p>
	<p>9 インタビューゲームをする。</p>	<p>⑪ Are you O.K ? Let's start. ・児童と一緒に活動する。</p> <p>⑫ This game is finished . Go back to your places.</p>	<p>(Do the game with students)</p> <p>What do you want to do ?</p> 	<p>◎ワークシート</p>
<p>10 本時の振り返り ・友達の目標を確認しながら ALT の質問に答える。</p> <p>[Let me try!]</p> <p>[I want to ~.]</p> <p>・振り返りカードを書く。 ・感想を発表する。</p> <p>・終わりのあいさつをする。</p>	<p>⑬ Back to today's topic.</p> <p>⑭ Who wants to try ? ・指名する。</p> <p>⑮ How was the class ? ・児童のがんばりを賞賛し、ALT にも感想を聞く。</p> <p>⑯ Let's finish our English class.</p>	<p>⑰ I want to know everyone's New Year's wish. Please tell me. (皆さんの目標が知りたい。教えてくれる人はいませんか?)</p> <p>⑱ What do you want to do ?</p> <p>Who has the same as you ? (あなたと同じ目標の人は誰ですか?)</p> <p>⑲ (Say something about today's class.)</p> <p>⑳ That's all for today. See you next class.</p>	<p>◎振り返りカード</p>	

評価

- ・自分の今年の目標を友達と伝え合うことができたか。
- ・インタビューゲームを通して友達とのコミュニケーションを楽しむことができたか。

IV 授業実践の評価

「Exciting English Lessons」に基づいて5年生の指導案を作成し、11回の授業を実践した。授業を振り返り、改善すべき点は指導案の加筆修正を行った。授業の評価は表5の通りである。本校児童の attitude に合わせ表現や活動を増減し、授業を行った。各学校での指導案作成の参考にしていただくと幸いである。(2クラスで授業を実践し、担任が行った授業に関することはⓂと表示)

表5 授業実践の振り返り

回	振り返り (○成果・▲課題)	対応策	研究の視点 (かかわりを大切に活動について)
1 10/9	○ コスチュームの例を提示 したので、児童がイメージしやすかった。 ▲歌が単元と合わない。 ▲衣装を考える時間が短かった。	「HALLOWEEN」(MPS#31)が適当。	☆担任でない教師との授業に戸惑いがある。
2 10/16	○ウォームアップと復習を5分で終わり、めあて確認後すぐ制作活動に入れたので、児童から 色々なアイデア が出た。 ▲制作するには 時間が必要 。 ▲既習の英語表現を教師が使えなかった。(「Who wants red vinyl?」児童から「Please.」など・・・)	・衣装制作には他教科との 合科 が必要。 ・指導案に 明記	☆友達や HRT との交流の中で、自分の伝えたいことが 英語で伝えられるような雰囲気作り が大切。
3 10/23	○パフォーマンス(動きや声など)の内容では ALTに褒められ、喜ぶ児童が多かった 。 ▲グループでパフォーマンスの練習をする場面では、教師の手が足りず、 各グループへの支援 が難しかった。 Ⓜ ○積極的に ALTにパフォーマンスの仕方を習いに行くグループ があった。		☆ ALTとのかかわりを楽しみ 、グループ内でのコミュニケーションを図ることができた。
4 11/6	○ 効果的な導入 により授業への関心意欲が高まった。 ○ 本物の野菜や果物 を提示することで、児童の英語表現への関心が高まった。 ▲ゲームの説明後 センテンスの練習 に入ったので、混乱している児童がいた。 ▲ゲームを進めることで頭がいっぱいになり、「What's this?」を言わずにカードをめくろうとするグループがあった。	・ センテンスの練習を十分行ってから ゲームの説明に入る。 ・ルールを しっかり守らせる 。	☆新しい表現に慣れ親しませるための活動に入る前に、たっぷり英語を聞かせなければ、グループ内でのかかわりは持てない。
5 11/13	○touch the picture ゲームでは、CDから流れてくる言葉をしっかり聞こうとする態度が見られた。(1回では聞き取りにくかったが、同じ曲を2回流すことで 聞けたという達成感 を味わう子が多かった。) また、 隣同士で教え合う姿 が見られた。 ▲すごろくシートは100マスまであって、ほとんどの児童がゴールできなかった。	・達成感を持たせる意味からも、50マス程度が適当。	☆ ペアで活動する場面 の取り入れ方によっては、高学年でも男女一緒に活動が可能。 
6 11/20	○シルエットクイズでは、児童が「英語で何と言うのか」と考える時間が取れて、ALTのヒントから予想しいろいろな言葉が出てきた。 ▲シルエットクイズのヒントが単語と合わないものもあって、児童が戸惑っていた。 ▲ゲームの説明について、 ALTとの細かな打ち合わせが必要 。 Ⓜ ○シルエットクイズでは、ALTのヒントから活発な発話が出ていた。 ▲シルエットクイズで時間がかかりすぎた。	・ヒントの中に単語に関する言葉を入れる。 ・授業前に再確認する。 	☆ ALTとの交流 を通して、思いついた英語を発したり、友達が発した言葉から新たな単語を発するなど、 英語を通しての「かかわり」 がもてた。 ☆ビンゴゲームではALTの隣で答えることで安心して答えられる。また、 聞く方も答える人の目を見て、聞くことができる 。
7 11/27	○伝言ゲームでは 耳を近づけて 、友達の言葉をしっかり聞こうとする態度が見られた。 ▲カード交換ゲームでは、自分の好きなカードだけを集めて終わろうとする子がいた。 ▲単語に「Okinawan」と「Ryukyu」があり、どっちだったか 児童が戸惑っていた 。また、初めて耳にする「textile」や「pottery」に「Okinawan」をつけたため、	・いろいろなカードを集められるような指示を最初で与える。 ・最初の単語をどちらかに統一。	☆相手のことをしっかり聞かなければ成立しないゲームでは、 グループの友達と積極的にかかわろうとする態度 が見られる。 ☆全体での交流では、いつも決まった友達としか活

	言葉が難しくなった。		動しない児童が HRT の声掛けで、 普段交流しない児童同士でかかわりを持つことができる。
8 12/4	○センテンスもチャンツで行ったため、スムーズに練習できた。 ○教室掲示やデモンストレーションでクリスマスに関する学習だということがわかり、学習意欲が高かった。 ▲HRT が前に出るのが多かった。 ▲ゲームでは、質問と答えに時間がかかりすぎている。	・HRT の合図でもっと リズムカル に進める。	☆全体で2つのプレゼントを回すゲームでは、隣とも全体ともかかわることが難しい。
9 12/18	○インタビューの仕方の良い例と悪い例を提示したので、児童の方から インタビューする際の注意点 に気づくことができた。 ○普段関わりの少ない児童同士が、インタビューゲームを通してお互いの欲しいプレゼントを知り、 お互いに「知れて嬉しかった。」 との感想が多かった。 ▲A4サイズの絵カードでは児童から見えにくい。	・できるだけ大きなものを作成。	☆普段関わりのない児童同士の交流は、 相互に新たな発見がある。 
10 1/8	○日本と ALT の出身国のお正月の迎え方など、 文化の違い に気づくことができた。 ▲似ている絵カードがあり、児童が困惑していた。	・客観的に分かりやすい絵や写真を扱う。	☆ゲームの中で ペアに譲り合いながら 、コミュニケーションを楽しむことができる。
11 1/22	○児童相互で「今年の目標」を知ることで、同じ目標を持つ 友達に対し関心が高まった。		☆活動を通して 友達とのコミュニケーションを楽しむ ことができる。

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 発達段階に応じた題材や活動を系統づけた年間指導計画・単元計画「Exciting English Lessons」に基づいた年間35時間分の5年生の活動指導案を作成することができた。
- (2) 活動指導案に合わせた教具を作成することができた。
- (3) 5年生の年間35時間分の活動指導案を作成し、管内小・中学校へ資料を配布することができた。

2 研究の課題

- (1) 他教科との関連も視野に入れた英語活動の展開
- (2) 学級担任単独の授業の展開と教材・教具の発掘
- (3) 小学校英語活動の評価について

《主な参考文献》

文部科学省編	『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』	東洋館出版社	2008年
文部科学省	『小学校外国語活動研修ガイドブック』	旺文社	2008年
岡秀夫・金森強 編著	『小学校英語教育の進め方～ことばの教育として～』	成美堂	2001年
渡辺寛治 (監)	『子どもが変わる！小学校英語活動一高学年一』	新学社	2007年
影浦攻・小学校英語セミナー委員会編	『小学校英語セミナー』	明治図書	
那覇市教育委員会	『研究開発学校（英語教育）年間指導計画』		平成19年度
吉澤寿一	『子どもが楽しむ英語活動～アクティビティ・歌・授業プラン～』	日本標準	2006年
オックスフォード大学出版局	『英語ゲーム 92』	旺文社	2005年

